

青年のひとりごと

外国人観光客の増加に伴い、現在、特急列車では、車掌に英語の肉声放送が義務付けられています。しかし、その英文は、自動放送とも重複していて、わざわざ肉声で放送する必要があるのかと疑問に感じます。そもそも、英文マニュアルそのものは、それを放送しなかったところで誰も困らないような内容です。その英文をただ棒読みするというパフォーマンスによって、JR九州の「国際化」をアピールしましょうというのであれば、その発想自体、いかにも「ドメスティック」であり、外国人の感覚とも相容れないのは言うまでもありません。当然、外国人からしたら、車掌が英語で放送したら、「英語通じるのか？」といった期待を持ってしまうわけで、それで、いざ車内でものを尋ねて、結果として困り顔をされたら、「何なの？」と不快に思われるのは目に見えています。航空会社の機内でも英語放送が実施されていますが、それはもちろん、乗務員本人が英語を話せるのが前提です。英語は、あくまでコミュニケーションの手段であって、ファッション感覚で使うものではありません。これは「常識」です。会社の「自己満足」によって、最終的に苦勞するのは、私たち「現場」の人間です。

※英文マニュアル

Ladies and gentlemen, thank you for using JR Kyusyu Railways. Please relax and enjoy your ride. (JR九州をご利用くださいますありがとうございます。どうぞ、おかつろぎ下さい。)

当面する行動

○12月5日(月)16:00～解放共闘幹事会 天神ビル

○ " 17:00～解放人権週間街頭行動

天神ソラリア前